



FIND YOUR SPECIAL WATCHES!!

Shellman Times

Vintage Watch Guide

完成のお知らせ!



※不定期で新着時計を更新していきます。

※お電話でのお問い合わせの際は、各時計の【A ●●●●●●】、【D ●●●●●●】等の商品番号にてお問い合わせいただくと、スムーズなご案内が可能です。

Shellman

スマートフォン用メンズアンティークウォッチカタログ

Shellman
Vintage Watch Guide

愛好家からビギナーまで幅広く支持される

名店選りすぐりのアンティーク [シェルマン]

卓越した審美眼で選りすぐったアンティークウォッチを提供し、国内外のファンから信頼を集める
銀座の名店シェルマン。その最新入荷情報をお届けしよう。

構成・文◎堀内大輔（編集部）／写真◎笠井 修

PATEK PHILIPPE

パテック フィリップ

Ref.96のサイズ感、そして流線的なケースフォルムを踏襲した自動巻きモデルで、“カラトラバ・オード”として知られるRef.3438。ケース径は30.5mmしかなく、これはオールドパテックの自動巻きで最小。また代名詞である“PPリュース”も健在だ。美しさを兼ね備えた実用パテックの筆頭に挙げられる1本である。

■Ref.3438。K18YG (30.5mm径)。自動巻き (Cal.27-460)。1960年製。374万円



パテック フィリップが製造を手がけ、ティファニー名で販売された1891年製のミニッツリピーター懐中時計。細身のローマンインデックスとスピード針、レイルウェイの王道的な組み合わせとなった文字盤デザインは非常に洗練されている。希少なローズゴールド製ケースの控えめな輝きが上品な雰囲気だ。エナメル仕上げを施した陶製文字盤のコンディションは良好で、年月の経過を感じさせない。

■K18RG (45mm径)。手巻き (Cal.17)。1891年製。385万円



同社初の自動巻きCal.12-600ATの後継として1959年に登場したのが、このCal.27-460である。ラチェット式巻き上げなど、基本設計はほぼそのままに、ベースムーブメントが変更され、実用性を高めた



VACHERON CONSTANTIN

ヴァシュロン・コンスタンタン

シンプルな薄型モデルのRef.6135と、ピラミッドインデックスを配した飛びローマン仕様の文字盤や円柱状ラグなど、デコラティブなデザインが目立つレクタンギュラーモデル。見比べると、トレンドの移り変わりを感ぜずにはられないが、作りの良さは時代を経ても変わらない。
 ■(左) Ref.6135。K18WG (31mm径)。手巻き (Cal.1002)。1950年代製。77万円。(右) レクタンギュラー。K18YG (20×26mmサイズ)。手巻き (Cal.435/C)。1930年代製。88万円



Ref.6135では薄型の手巻きCal.1002を搭載。受けに刻印されたジュネーブシールがその信頼性の高さを証明している。対するレクタンギュラーモデルでは、角形のCal.435/Cが搭載されている



IWC

アイ・ダブリュー・シー

手巻ムーブメントの操作に数えられるCal.83を搭載した2本。比較的30mmサイズが多いCal.83搭載モデルのなかで、ブラックミラー文字盤仕様は32.5mm径、イエローのツートンカラー文字盤仕様は35mm径と適度なサイズ感となっている。
 ■(左) SS (32.5mm径)。手巻き (Cal.83)。1930年代製。66万円。(右) SS (35mm径)。手巻き (Cal.83)。1940年代製。55万円



LONGINES

ロンジン

クリップ式によってケースの気密性を高めたスクエア防水モデルと、人気の高いステップベゼル仕様。いずれも程よくエイジングされた文字盤がいい味を出している。
 ■(左) 防水スクエア。SS (27mmサイズ)。手巻き (Cal.23M)。1940年代製。63万8000円。(右) ステップベゼル。SS (32mm径)。手巻き (Cal.12.68Z)。1940年代製。52万8000円

優れた審美性で選りすぐった
幅の広い商品構成

国内のオールドパテックファンで、おそらく知らない人はいないであろうといえるほどの名店が、1971年に銀座で創業したシェルマンだ。そのラインナップは定番のカラトラバから懐中コンプリケーションまで幅広く、かつ上質なコンディションにこだわっており、国内のみならず海外にも多くのファンをもつ。また長年、オールドパテックを中心に取扱い扱ってきたという実績から、コアなファンの顧客も多く、翻って、オールドパテック最初の1本を探している人も安心して購入できるショップと言えるだろう。

そんな同店の取り扱い扱いは、オールドパテックだけではない。一流メーカーの時計を長年取り扱ってきたことを通じて培われた、同店の優れた審美眼によって厳選された様々なアンティーク時計が展開されているのだ。その基準ではブランドの有名無名は問わないため、なかには10万円台からの手頃な価格で楽しめる時計も実は結構ある。

ここで取り上げているのは、そんなシェルマンが選りすぐったアンティーク時計たち。アンティークらしい味わいと上品な意匠が魅力となったモデルが並ぶ。

「オールドパテックの名店」と聞くと、なかには敷居を高く感じてしまう人がいるかもしれないが、手頃な価格帯も充実している商品構成に加え、物腰柔らかな接客対応など、その実、シェルマンはアンティークビギナーでも気兼ねなく訪れることができる。むしろビギナーであればこそ、こうした信頼のあるショップでセレクトしてほしい。

1934年製

ルクルトベースを搭載する 初期の Ref.96

今回の表紙を飾ったパテック フィリップのRef.96である。「ずいぶんとエイジングがみられる個体だなあ」と驚いた御仁もおられるのではないだろうか。実はこの個体は1934年製、つまり96がこの世に誕生してから2年後に製造された、かなり初期の頃の個体なのだ。しかも、セクターダイアルが採用された文字盤デザインというのもまたいい。

30年代を代表する96のデザインには、スモールセコンド、センターセコンド両者に共通して、様々な種類のセクターダイアルが存在することも確かなのだが、この個体はインデックスがすべて立体的なつくりというのがかなり珍しい。

さてこの個体だが、冒頭でも触れたように、確かに文字盤は全体的にかなり経年変化し、ゴールドのベゼル部分にもサビが見て取れる。しかし文字盤についてはエナメル部の立体感が残っており、しかもこのエイジングも肉眼ではこの写真ほど目立っているわけではないため逆にいい味だ。

Ref.96が搭載するのは基本的にCal.12-120だが、この個体には最初期の一部に採用されたルクルトベースの12型ムーヴメントが搭載されている。アーカイブによるとムーヴの製造は22年で、ケーシングは33年（34年販売）だ。

■K18YG（30.5mm径）。手巻き（Cal.12）。297万円/西セルマン



セクターダイアルのバーインデックスがすべてアップライトでしっかりとしている。文字盤のエナメル部の立体感も残る



この個体にはCal.12-120ではなく初期型の一部で採用されていたルクルトベースの12型ムーヴメント（1922年に製造）が搭載されている

名機

アンティークウォッチには、
同じモノがひとつとしてないという
オンリーワンの楽しさがある。
手作りゆえの技術的こだわりや工夫、
そこに隠れているストーリーなど……。
その時代を反映した希少な逸品をお届けしよう。

礼

写真◎笠井 修
文◎菊地吉正（編集部）

讃

PATEK PHILIPPE

